

目次

| | | |
|-----------------------------|-----------|------|
| ア 学則変更（収容定員変更）の内容 | ・ ・ ・ ・ ・ | p. 1 |
| イ 学則変更（収容定員変更）の必要性 | ・ ・ ・ ・ ・ | p. 1 |
| ウ 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容 | ・ ・ ・ ・ | p. 4 |

学則の変更の趣旨を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

桜美林大学グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類を平成28年度から設置することに伴い、入学定員250人、収容定員1,000人の増員を行う（平成27年4月設置届出予定）。これにより、大学全体の入学定員は2,130人、平成31年度の完成年度時点の収容定員は8,520人となる。

| 学群・学類 | 現行 | | | 変更後 | | |
|-------------------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|
| | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 |
| リベラルアーツ学群 | 950人 | — | 3,800人 | 950人 | — | 3,800人 |
| 芸術文化学群 | 250人 | — | 1,000人 | 250人 | — | 1,000人 |
| ビジネスマネジメント学群 | | | | | | |
| ビジネスマネジメント学類 | 400人 | — | 1,600人 | 400人 | — | 1,600人 |
| アプリケーションマネジメント学類 | 80人 | — | 320人 | 80人 | — | 320人 |
| 健康福祉学群 | 200人 | — | 800人 | 200人 | — | 800人 |
| グローバル・コミュニケーション学群 | | | | | | |
| グローバル・コミュニケーション学類 | 0人 | — | 0人 | 250人 | — | 1,000人 |
| 合計 | 1,880人 | — | 7,520人 | 2,130人 | — | 8,520人 |

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

1 収容定員変更の必要性が生じた背景

(1) グローバル・コミュニケーション学群の設置に至る社会的な背景

現代の社会において、グローバル人材の育成が急務であることは各界で広く認識されている。産業・経済が急速に高度化、グローバル化していく中で、豊かな語学力やコミュニケーション力を持ち、異文化を理解し、国や社会を越えて国際的に活躍できるグローバル人材の育成・確保の重要性はますます高まっている。このグローバル人材の育成は、教育界全体で取り組むべき喫緊の課題であり、初等中等教育段階では、英語教育の拡大強化や

高度化等，小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実が図られている。一方，大学においては，単に外国語能力を身につけた人材を育成するのではなく，深い教養を身につけ，コミュニケーション能力と課題解決力の双方を持ち合わせた人材の育成が求められている。

国策によるグローバル人材の育成として，平成 20 年 7 月に「留学生 30 万人計画」の骨子が策定された。その趣旨には，「日本をより開かれた国とし，アジア，世界との間のヒト，モノ，カネ，情報の流れを拡大するグローバル戦略を展開する一環として，2020 年度を目途に留学生受け入れ 30 万人を目指す。」と明記されている。この計画の主たる目的は，大学の国際競争力を高め，優れた外国人留学生を戦略的に獲得することであり，文部科学省ほか関係省庁による総合的かつ有機的な取組となっている。また，グローバル化を推進する大学への支援も始まっている。

まず，平成 21 年度には，「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」，いわゆる「グローバル 30」を実施し，日本人学生と外国人留学生が切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材の育成を図る大学への支援を始めた。さらに平成 23 年度からは，「大学の世界展開力強化事業」を開始し，国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し，質の保証を図りながら，日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受け入れを行うアジア，米国，欧州等の大学との国際的な教育連携の取組の支援を行っている。

加えて，平成 25 年 6 月の「教育振興基本計画（閣議決定）」において，「グローバル化」が重要なテーマとして位置づけられた。本基本計画には，グローバル化が進む中で，未来の社会を創造できる人材を育成することが教育の使命であり，グローバル社会で求められる力を身につけた中核的・専門的人材を確保する必要があると明記されている。

これらの方針や政策を受けて，平成 26 年度には，「スーパーグローバル大学創成支援」として，我が国の高等教育の国際競争力の向上及びグローバル人材の育成を図るため，世界トップレベルの大学との交流や連携を実現，加速するための人事，教務システムの改革や，学生のグローバル対応力育成のための体制強化等といった，国際化を徹底して押し進める大学を重点的に支援する取組を開始した。

国策によるこれら一連の取組から見えてくるものは，グローバリゼーションの中における我が国の発展と世界に通用する大学づくりであることが分かる。

（２）桜美林大学の沿革とグローバル・コミュニケーション学群の設置に至る経緯，設置する理由及び必要性

学校法人桜美林学園では，「学校法人桜美林学園寄附行為」第 3 条第 1 項において，「この法人は，教育基本法及び学校教育法に基づき基督教主義により男女青少年に知識技能を授け，人格教育を行い，国家及び世界のため貢献する有益な人材を育成することを以って目的とする。」と定めている。

また、本法人の設置校である桜美林大学（以下「本学」という。）では、法人の目的に沿って、「桜美林大学学則（以下「本学学則」という。）」第1条において、「桜美林大学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、豊かな人間性を涵養するため幅広い知識を授けるとともに、専門学芸の研究と教育を行い、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを目的とする。」と定めている。

これらは、創立者・清水安三の人と思想に基づいており、本学学則第1条については、建学の理念にもなっている。

清水は滋賀県の膳所中学校在学時に洗礼を受け、同志社大学神学部卒業後、宣教師として中国・北京に渡り、大正10年、北京市の朝陽門外に「崇貞学園」を開設し、貧困地域の中国人女子を対象とした教育を開始した。その後、中国人女子だけではなく、朝鮮半島や日本の生徒たちも学ぶようになるが、清水は、国籍によって分け隔てをすることなく、それぞれのアイデンティティを尊重した教育を行い、人が育つ場として、700人もの生徒が学ぶまでの学校に発展した。

崇貞学園はその後、日本の敗戦によって中国政府に接収され、清水は無一文で日本に引き揚げ、帰国後、戦争により荒廃した日本の地を目のあたりにし、新たな教育を再開することを決意する。

一面野原が広がり、桜の木々が美しく咲き誇る場所であった東京・町田の地に、清水は「桜美林学園」を設立した。終戦直後の昭和21年のことである。以来、キリスト教精神に基づき、どのような環境にあっても常に希望を有し、国や文化、人種を越えて多様な価値に対応できる国際的な人材を育てるための教育に勤しむ学校として発展してきた。

桜美林学園設立後の主な歩みは、下表の通りである。

| | |
|--------|------------------------------------|
| 昭和41年度 | 桜美林大学（文学部英語英米文学科、中国語中国文学科）を開学 |
| 昭和43年度 | 経済学部経済学科を開設 |
| 昭和47年度 | 経済学部商学科を増設 |
| 平成元年度 | 国際学部国際学科を開設 |
| 平成9年度 | 経営政策学部ビジネスマネジメント学科を開設 |
| 平成12年度 | 文学部に言語コミュニケーション学科、健康心理学科、総合文化学科を増設 |
| 平成17年度 | 総合文化学群（現「芸術文化学群」）を開設 |
| 平成18年度 | 健康福祉学群、ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類を開設 |
| 平成19年度 | リベラルアーツ学群を開設 |
| 平成20年度 | ビジネスマネジメント学群にアビエーションマネジメント学類を増設 |

主な特徴として、英語と中国語の言語学・文学を基盤としながら、経済学や商学、国際学へと展開してきたことが挙げられる。さらには、ビジネスや芸術文化、健康科学や福祉

といった教育研究領域へと発展、拡大してきた。

近年の大きな特徴は、「学部・学科制」から日本の私立大学で初となる「学群制」に移行したことである。学群制の基本的な考え方は、中央教育審議会が平成17年1月に答申した「我が国の高等教育の将来像」における大学の「機能別分化」に基づいている。本学においては、機能別分化した各学群を「クラスター・カレッジ」と呼び、それぞれの教育研究の特色や個性を出せるようにした。このクラスター・カレッジを、「リベラルアーツ系」のリベラルアーツ学群と「プロフェッショナルアーツ系」の芸術文化学群、ビジネスマネジメント学群、健康福祉学群に分類し、前者は「総合的教養教育」を、後者は「幅広い職業人養成」及び「特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究」を推進する体制とした。これにより、幅広くユニークな教育研究を行うことができる組織を維持している。

学群制を整備する中で常に主眼に置いてきたことは、「国際的人材の育成」ひいては「グローバル人材の育成」である。

今回の新学群構想は、第三のクラスター・カレッジとして、「グローバル教育系」の学群を展開していくものである。これは開学以来、本学が培ってきた教育資源やノウハウ等を十分に活用するものであり、また、時代や社会の変化・求めに対して、機能別分化を推し進めてきた本学が高等教育機関としての使命を果たすものである。故に、既存の二つのクラスター・カレッジに加え、グローバル教育系としての新たなクラスター・カレッジとなる本学群を設置、展開していくことは極めて自然な流れであり、社会の求める人材の育成と一致しているといっても過言ではない。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

1 グローバル・コミュニケーション学群の特色

今回設置するグローバル・コミュニケーション学群は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（平成17年1月）で提言された7つの機能のうち、主として「3. 幅広い職業人養成」及び「4. 総合的教養教育」を行う機能を有する学群である。

本学群の特色は「外国語教育を基本とし、国際語としての英語、または、外国語としての中国語や日本語を修得する中で、言語の構造や機能、及び、当該言語が話されている社会や文化を深く研究し、日本と世界を比較対照できる識見を培いながら、協働活動を通してグローバルリーダーシップの基礎基本を修養できる教育等を行う」ことであり、これを教育研究上の目的としている。

また、まとまった学修の体系として4つの専修（「英語特別専修」「中国語特別専修」「日本語特別専修」「グローバル教養専修」）を設ける。本学では、「専修」を「専ら中心に学ぶ学問領域」と位置づけていることから、各専修には定員を設けず、学生の希望に応じて配

置できるようにしている。さらに、いずれの専修も外国語による履修が中心となっていることから、英語、中国語、日本語の「特別専修」という形で学修の体系化を図っている。なお、原則一つの言語のトラックで学修を進めるが、例えば、言語を越えた学修を行う学生や、2言語の学修を目指す学生の要望等にも応えることを可能とするため、「グローバル教養専修」というトラックも設けることとしている。

2 教育課程の変更内容

グローバル・コミュニケーション学群では、グローバル人材の育成に最適な教育課程を編成する。そのために、科目区分として「学群指定科目」「語学技能科目」「グローバル・スタディーズ科目」の大区分を設ける。

まず、学群指定科目は、本学群の教育目的の基礎となる科目を中心に置き、本学群の学生が共通して履修する科目群とする。次に、語学技能科目には「英語コミュニケーション科目群」「中国語コミュニケーション科目群」「日本語コミュニケーション科目群」の小区分を設け、各外国語の運用能力とそれに伴う言語文化的知識や技能を養成するための科目を置く。さらに、グローバル・スタディーズ科目には「日本文化系科目群」「グローバル社会系科目群」の小区分を設ける。これらの科目区分は、語学、コミュニケーションとリーダーシップを基軸とする本学群の教育目標の達成のために設けるものであるが、さらに留学を課すこととする。

(1) 学群指定科目

学群指定科目は15科目より構成している。必修科目である「グローバル・コミュニケーション入門」では、言語における音韻や音声、語彙や文法はもちろんのこと、言語の機能的な側面や文化的価値観等外国語によるコミュニケーションに必要な総合的理解力を養成する。同じく必修科目の「外国語修得法」では、言語構造や認知科学的アプローチ等を紹介しつつ、様々な学説を比較対照しながら、母語以外の修得方法を考察する。単に外国語の文法や単語を修得させるだけではなく、コミュニケーションとは何か、文化的背景はどのようなものかを学修させることで、本学群での学びの礎を築きあげる。

選択必修科目では、「グローバリゼーションと社会」「イノベーションとリーダーシップ」「論理的思考とコミュニケーション」「数的理解と統計」を置いている。これらの科目は、世界情勢の全体動向の把握、リーダーシップマインドの養成、正解のない問いに対する普遍的かつ論理的思考力の養成、そして文科系の学生に不足している数学的能力の錬成という4本の柱で構築している。平成20年12月の中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」では、学士力に関する主な参考指針が示され、「1. 知識・理解(文化、社会、自然等)、2. 汎用的技能(コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等)、3. 態度・志向性(自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等)、4. 総合的な学習経験と創造的思考力を身につけることが求められる」と提言しているが、正にこれ

に合致した構成となっている。上記4科目のうち、3科目6単位を修得することを卒業要件としている。

このほか、「自己実現とキャリアデザイン」は単なる就職活動のテクニカル論にとどまらない、幅広いキャリアを入学時から考察する科目として配置する。また、3年次以上の配当科目として、2年間の学びと1学期間の留学経験がよりブラッシュアップできるよう、「グローバル・リーダーシップ・セミナーⅠ・Ⅱ」「インターンシップ」「フィールド・スタディ」「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」の科目を設定している。

「グローバル・リーダーシップ・セミナーⅠ・Ⅱ」は様々な企業や団体のリーダーの多様な事業事例に焦点をあてて、理論と実際の具体的な乖離について学んだ上で、リーダーとして取るべき行動や構成員を導いて事業を成功させる方法、その過程で起こりうる問題の解決方法等について、ディスカッションやプレゼンテーションを行うとともに、グループワークによる実践を通じて学修する。「インターンシップ」では、事前学習で意義や目的を理解させた上で企業や団体で実際に就業体験を行い、就業観を養うとともに、ビジネスマナーや業界の予備知識等を身につけさせ、実習後には報告書を提出させる。「フィールド・スタディ」では、学生の主体的な問題意識によって課題発見を行うことを目的とし、事前計画書の提出と教員による指導に基づき個別に実地調査等を行い、調査後は研究レポートを指導教員に提出させる。「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」は卒業後の進路選択について自らの意思決定に必要な情報収集の方法や具体的な就職活動の情勢を学び、業界研究やグループディスカッション、面接対応等の学びへと深化していくことで、自己や社会への理解を深める。

(2) 語学技能科目

語学技能科目は65科目より構成している。語学技能科目には前述の通り、英語コミュニケーション科目群、中国語コミュニケーション科目群、日本語コミュニケーション科目群の小区分を設けている。2年次後期（又は3年次前期）からの留学を前提とした、外国での大学教育にも十分対応できる能力を身につけさせる。

①英語コミュニケーション科目群

英語特別専修及びグローバル教養専修では、1年次に「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」の4科目16単位を履修させる仕組みとしており、十分な学習量と学習時間を確保している。この科目では、様々なテーマを通して4技能（読む・書く・話す・聞く）を上達させる。国際化が進む社会に対応できる英語の基本を大学初年次に養うようデザインしている。英語力を向上させ、英語に対する自信を深め流暢さを身につけることを目的とする。

その上で習熟度別の「初級英語演習」「中級英語演習」「上級英語演習」を配置している。習熟度別に初級、中級、上級の3レベルで編成し、4技能（読む・書く・話す・聞

く)の修得に加え、ディスカッション、時事問題、文化、社会、アカデミック・スキル、TOEFL®やTOEIC®等の検定試験対策等をテーマとした様々なクラスを用意している。学生各自の目的や興味、関心に応じてこれらのクラスから複数を選択し、履修することを可能としている。例えば、リーディングは上級クラス、スピーキングは初級クラスを履修すること等を可能とし、学生各自の能力や目的に応じた英語能力を養成する。

このほか、「英語特別演習Ⅰ」「英語特別演習Ⅱ」を設けている。入学時において優れた英語力を有する学生を対象としており、英語における語彙や文法、音韻等の基礎構造を正しく理解した上で、特に、ジャンルごとの特徴に応じた英語のスタイルを意識しながらその修得を目指す。具体的には、リサーチペーパーやエッセイ、ジャーナル、アーティクル等の相違を理解し、原因と結果、比較対照、定義、相関等の論理構造の運用力を高める。Ⅰはその基礎編であり、ⅡはⅠに続く応用編として設定している。

「英語コミュニケーションAⅠ」「英語コミュニケーションAⅡ」は、様々なスピーチに焦点をあてて、その機能や特徴を理解し、高いレベルの修得を目的とする。AⅠはその基礎編であり、AⅡはAⅠに続く応用編として設定している。政治政策的なスピーチ、ビジネスにおけるプレゼンテーション、セレモニーにおけるスピーチ等、具体的な事例を取り上げながら、その基礎を修得し、演習を重ね、実践的な力を修得させる。

「英語コミュニケーションBⅠ」「英語コミュニケーションBⅡ」は、様々なライティングに焦点をあてて、その機能や特徴を理解し、高いレベルの修得を目的とする。BⅠはその基礎編であり、BⅡはBⅠに続く応用編として設定している。事実や意見、主張を整理したり、部分と全体を構成したりする基礎的な理解から、論文やエッセイ、記事やジャーナル等、ジャンルに応じたスタイルを修得させる。さらに、デジタルネットワーク上のコンポジションについても考察する。

「実践英語A～J」は語学技能の上位科目である。各科目の目的を細分化し、母語話者とのコミュニケーションに必要な4技能（読む・書く・話す・聞く）における高次のスキルを養成する科目を用意している。また、ビジネスや学術に必要とされる「コンポジション」や「テキスト制作」「デジタルメディア作成」の技能習得、「翻訳」の知識技能の養成を行う科目も設定する。さらには、「アカデミックスキル」「リサーチスキル」を養成する科目もあり、これは学校法人桜美林学園中期目標に定めている「常により高いレベルを目指すように導き、半数程度はいずれかの時点で大学院への進学を志向する教育を実践する」に根ざしたものである。また、留学プログラムによって派遣先で修得した単位の認定を行う際に、対象となる科目である。

②中国語コミュニケーション科目群

中国語特別専修では、1年次に「中国語ⅠA」「中国語ⅠB」「中国語ⅡA」「中国語ⅡB」の4科目16単位を履修させる仕組みとしており、十分な学習量と学習時間を確保している。この科目は、中国語の発音や基礎文法とともに4技能（読む・書く・話す・聞

く)の伸ばしていくための基礎を固めつつ、実用会話を修得させる。これに加え、中国語の声調及び発音表記である「拼音字母」の修得にも注力する。異文化理解を深めるためのコミュニケーション能力向上を重視し、授業ではテキストで学習した表現を「覚える」だけでなく、「使う」ことに重きを置く。

その上で習熟度別の「初級中国語演習」「中級中国語演習」「上級中国語演習」を配置する。実際の場面での言語運用能力を高めることを目的とする。聞く、話す、読む、書くという技能を個別に高めたり、生活、文化、社会、ビジネス等、特定のテーマに取り組むことで、技能を総合的に高めたりする授業である。初級、中級、上級の演習科目を用意し、個々の能力や興味関心に応じた授業を展開する。基本的な言語構造の理解と、実際の場面における実用の技能を並行して高める。

このほか、「中国語特別演習Ⅰ」「中国語特別演習Ⅱ」を設けている。既に基礎的な中国語力を有する学生を対象としており、中国語における語彙や文法、音韻等の基礎構造を正しく理解した上で、特に、ジャンルごとの特徴に応じた中国語のスタイルを意識しながらその修得を目指す。具体的には、論文やエッセイ、ジャーナル、アーティクル等の相違を理解し、原因と結果、比較対照、定義、相関等の論理構造の運用力を高める。Ⅰはその基礎編であり、ⅡはⅠに続く応用編として設定している。

「中国語コミュニケーションAⅠ」「中国語コミュニケーションAⅡ」は、様々なスピーチに焦点をあてて、その機能や特徴を理解し、高いレベルの修得を目的とする。AⅠはその基礎編であり、AⅡはAⅠに続く応用編として設定している。政策的なスピーチ、ビジネスにおけるプレゼンテーション、セレモニーにおけるスピーチ等、具体的な事例を取り上げながら、その基礎を修得し、演習を重ね、実践的な力を修得する。

「実践中国語A～J」は語学技能の上位科目である。各科目の目的を細分化し、母語話者とのコミュニケーションに必要な4技能(読む・書く・話す・聞く)における高次のスキルを養成する科目を用意している。また、ビジネスや学術に必要とされる「コンポジション」や「テキスト制作」「デジタルメディア作成」の技能習得、「翻訳」の知識技能の養成を行う科目も設定する。さらには、「アカデミックスキル」「リサーチスキル」を養成する科目もあり、これは学校法人桜美林学園中期目標に定めている「常により高いレベルを目指すように導き、半数程度はいずれかの時点で大学院への進学を志向する教育を実践する」に根ざしたものである。また、留学プログラムによって派遣先で修得した単位の認定を行う際に、対象となる科目である。

③日本語コミュニケーション科目群

日本語特別専修は日本語を母語としない、主として外国人留学生を対象とした専修である。1年次に「日本語ⅠA」「日本語ⅠB」「日本語ⅡA」「日本語ⅡB」の4科目16単位を履修させる仕組みとしており、十分な学習量と学習時間を確保している。この科目は、非日本語母語話者の学生として他の学生とともに授業に参加し、勉学を進め、交

友を深めるために必要な知識と技能の基礎の修得を目指す。必要な語彙や表現，文法等を，専門，社会，生活等に関わる言語素材を通して学びつつ，講義の聞き取り，ノート
の取り方，専門書の読解，レポートの作成，発表等，専門の学習に必要な技能を修得さ
せる。また，周囲との円滑なコミュニケーションをはかるための日本語力を養う。これ
により得た知識を個別の目標に添った実践で運用することができるよう，担当教員が十
分な学習支援とアドバイスを行う。

その上で習熟度別の「初級日本語演習」「中級日本語演習」「上級日本語演習」を配置
する。音韻音声，語彙，文法，話し言葉，書き言葉，場面に応じたコミュニケーション
等，言語の構造的な側面や，実際の運用上の特徴，文化や社会との関係，目的に応じた
日本語等，個々の学習者の多様な目的を達成するために準備している科目である。初級，
中級，上級とレベル分けし，それぞれの目的を達成できるように授業を準備している。

このほか，「日本語特別演習Ⅰ」「日本語特別演習Ⅱ」を設けている。既に基礎的な日
本語力を有する学生を対象としており，日本語における語彙や文法，音韻等の基礎構造
を正しく理解した上で，特に，ジャンルごとの特徴に応じた日本語のスタイルを意識し
ながらその修得を目指す。具体的には，講演やスピーチ，論文やエッセイ，ジャーナル
等，ジャンルの相違を理解し，原因と結果，比較対照，定義，相関等の論理構造の運用
力を高める。Ⅰはその基礎編であり，ⅡはⅠに続く応用編として設定している。

「日本語コミュニケーションAⅠ」「日本語コミュニケーションAⅡ」は，様々なスピー
チに焦点をあてて，その機能や特徴を理解し，高いレベルの修得を目的とする。AⅠ
はその基礎編であり，AⅡはAⅠに続く応用編として設定している。政策的なスピーチ，
ビジネスにおけるプレゼンテーション，セレモニーにおけるスピーチ等，具体的な事例
を取り上げながら，その基礎を修得し，演習を重ね，実践的な力を修得させる。

「日本語コミュニケーションBⅠ」「日本語コミュニケーションBⅡ」は，文字言語に
焦点をあてて，その機能や特徴を理解し，高いレベルの修得を目的とする。BⅠはその
基礎編であり，BⅡはBⅠに続く応用編として設定している。事実や意見，主張を整理
したり，部分と全体を構成したりする基礎的な理解から，論文やエッセイ，記事やジャ
ーナル等，ジャンルに応じたスタイルを修得させる。デジタルネットワーク上のコンポ
ジションについても考察する。

(3) グローバル・スタディーズ科目

グローバル・スタディーズ科目は32科目より構成し，2年次から履修することを可能と
している。日本の文化・歴史・思想，世界の経済や国際政治，ジェンダー等について，英
語と中国語による授業を展開する。本学群の特色である外国語教育を基本とし，国際語と
しての英語，又は，外国語としての中国語や日本語を修得する中で，当該言語が話されて
いる社会や文化を深く研究し，日本と世界を比較対照できる識見を培うことを目的とする。

例えば，グローバル教養専修の学生が2年次に「比較文化論」を英語クラスで学び，そ

の後に修得した中国語を活用して同一科目の中国語クラスで学ぶことも可能とする。同一科目を複数の言語で履修することにより、両外国語の語彙や文法上の差異、両外国語の習熟度を客観的に把握することを容易にし、学修の深化や複数の外国語能力を獲得する等、日本の大学に居ながらにして「生きたグローバル感覚」の醸成を行う。また、これらの科目は、同時に本学へ来日する短期留学生の開講科目にもするため、教場では日頃から外国人留学生と学びをともにする。

(4) 留学

グローバル・コミュニケーション学群の養成する人材像を具現化するために、留学は教育課程の重要なプログラムとして位置づけている。外国の大学において学修しながら五感で世界を感じ取り、価値観や慣習の差異を肌身で受け止めてくることはグローバル人材の育成には欠かせないステップである。より充実した留学のためには留学前にインテンシブな語学学習が必要であり、留学を通じて学んだことを留学後の履修に役立てることでグローバル人材の育成が完成する。そのプロセスとして留学を位置づけている。このため、本学群の学生に、原則として2年次後期（又は3年次前期）に1学期間の留学を課す。なお、留学先で修得した科目については可能な範囲で単位認定を行うものとする。以下、具体的な単位認定の方法について記載する。

留学先の大学において修得した科目は、グローバル・コミュニケーション学群の授業科目として単位認定を行う。語学技能科目又はグローバル・スタディーズ科目に配置している「実践英語A～J」「実践中国語A～J」「国際教養研究A～D」が対象の科目に該当する。

3 教育方法及び履修指導方法の変更内容

(1) 授業の方法、1クラスあたりの学生数、配当年次の設定

グローバル・コミュニケーション学群の性質上、外国語やリーダーシップ教育等、多くの演習科目を設置している。そのため、授業の態様に応じて少人数教育を実施する。具体には、語学技能科目については1クラス30人を定員とし、生きた外国語を身につけさせる環境を整える。また、必修科目の「グローバル・コミュニケーション入門」は1年次前期に履修させる科目であることから、1クラスの人数を40人以内に設定し、本学群における学びの本質について丁寧に解説していく。

本学群の学修の基礎となる「グローバル化と社会」「イノベーションとリーダーシップ」「論理的思考とコミュニケーション」「数的理解と統計」「自己実現とキャリアデザイン」と、各専修の必修科目となる「英語ⅠA～ⅡB」、「中国語ⅠA～ⅡB」、「日本語ⅠA～ⅡB」は1年次科目としており、段階的な学びの仕組みを構築している。海外留学は2年次後期（又は3年次前期）に設定した。インテンシブな語学学習により基礎を十分に身につけた段階で留学するようにし、充実した留学生活となるように配慮している。グロ

ーバル・スタディーズ科目についても、学び方の基礎となる科目を1年次に修得してから履修することにより学修効果を上げる仕組みのため、配当年次を2年次以降としている。

(2) 履修指導

履修指導にあたっては、専任教員全員が「アカデミック・アドバイザー」として学生一人ひとりを担当し、学修に関する指導を行う。アカデミック・アドバイザーは、学生の履修登録の状況や成績を絶えずモニターし、学期初めに履修指導を行うほか、オフィスアワーを設け、学生の相談に随時対応し、助言等を行う。さらに、GPAによる成績管理を行い、成績不振者に対して保護者を含めた面談指導を行う。

具体には、入学後の新入生全体オリエンテーションにおいて、建学の精神に基づき本学群が養成する人材像及び教育目的、教育方法、卒業要件等について説明した後に、アカデミック・アドバイザーによる個別指導を行う。アカデミック・アドバイザーは、教育課程における必修科目等の基幹科目の位置づけや必要性を明示して早期履修を促し、その上で各学生の興味、関心、目的意識、将来の進路意識等に応じた指導を行う。履修指導は入学時のみならず、在学期間を通して随時行い、各学期の履修登録の指導、単位修得を含めた学修の進捗状況の確認、各授業の学習や課題への取組に関する指導と助言、その他学生が効果的に学修するための様々な支援を行う。

各学生へは「卒業要件確認表」(資料1)及び「履修モデル」(資料2)を配付し、アカデミック・アドバイザーとの面談時には「卒業要件確認表」を必ず持参させる。この「卒業要件確認表」には、卒業要件を満たすための各科目群における必要修得単位数、各授業科目の単位数及び必修、選択必修、選択の別を記載しており、学生各自が単位修得状況を記入することによって、卒業までの道のりを確認できるようになっている。

4 教員組織の変更内容

グローバル・コミュニケーション学群の専任教員は22人である。大学設置基準第13条に規定されている必要専任教員数13人(教授7人以上)を大きく上回る配置により、きめ細やかな教育を行う体制を整えている。職位の内訳は、教授10人、准教授4人、講師7人、助教1人である。

本学群専任教員22人の異動元となる既設の教育組織は、リベラルアーツ学群8人、インターナショナル・インスティテュート2人、基盤教育院7人、大学院1人、留学生別科1人である。なお、本学群の開設に伴う専任教員の新規採用は4人(うち、1人は本学研究所助手、1人は本学非常勤教員)である。

現在、本学全体で学部組織の必要専任教員数の1.5倍以上の専任教員数を配置しており、異動元の既設学群の教育の質の担保は十分に可能である。また、本学では、研究組織である「学系」と教育組織である「学群」を分離しており、教員の所属は学系としている。言い換えれば、「学系に所属し、学群に教えに行く」という体制を整備している。そのため、

大学全体として俯瞰すると、量的に十分な教員を持って各教育組織の授業を担当している
ので、今回の認可申請による収容定員増に関して支障は無く、教育の質を担保することが
可能である。しかし、本学群に異動となる教員が異動前に担当していた授業については、
必要に応じて新規に採用等を行うことにより、学生に不利益が生じることのないように努
める。

なお、本学群の専任教員のうち完成年度末までに定年となる教員はいない。他の既設学
群では定年となる教員があるが、大学全体の人事計画に基づいて適切に採用を行っていく
こととしている。

5 大学全体の施設・設備の変更内容

(1) 校地、運動場の整備計画

グローバル・コミュニケーション学群を設置する町田キャンパスは、現在 103,434.67 m²
の校地面積を有している。既設の学群と共用することとなるが、本学群開設に伴う収容定
員増を踏まえても大学設置基準上の条件を十分に満たしている。

本学では質量面でのキャンパスの高度化及び情報システム高度化を目指す取組を行って
いる。学生及び教員が安全で快適な環境の中で授業を受け課外活動に取り組み、また教育・
研究に勤しむことができる環境こそが教育にふさわしいと考え、キャンパスの整備を進め
ている。安心安全の確保については、防犯、防災面について定められた法規に従い、施設
設備の維持管理・保守・整備を行っている。今回の認可申請に伴い、現時点で決定してい
る整備計画は、空調機器の新機種への更新、エレベータ及びエスカレータ等昇降設備の更
新、防犯カメラの高度機種への更新、校舎出入口等のバリアフリー化推進工事等である。

運動場については 69,048.20 m²を有し、本学群の新設に伴う利用者増にも十分に対応が
可能である。総合運動場（人工芝）、野球場、テニスコート、アーチェリー場、弓道場、ゴ
ルフ練習所等が整備され、授業や課外活動及びスポーツフェア等のイベントの使用に供し
ている。

(2) 校舎等施設の整備計画

本学群で使用する講義室、演習室等については、専用の施設を持たず既存の他学群、研
究科と共通で使用する計画としている。授業科目の履修登録者数や講義形態を判断しなが
ら他と重複することのないよう、教室の割りあてを適切に行うことで定員に応じた教室数
を確保することが可能であり、教育・研究への支障はない。

町田キャンパスには、講義室 140 室、演習室 33 室、実験実習室 58 室、情報処理学習施
設 23 室、語学学習施設 13 室を整備しており、ほぼ全てに高画質プロジェクター、ブルー
レイ/DVDプレーヤー等の最新の教卓集中管理型のAV設備を整えている。しかし、情
報環境は時代とともに常にバージョンアップすることが求められている。本学群の教育課
程を実施するにあたって、開設までに次のような整備を実施する。学生自習用PCのソフ

トウェア更新，コンピュータ教室のPCの新機種への更新及びソフトウェア更新，大学事務室PCの新機種への更新，複合機等の新機種への更新，教員用PCの新規環境整備，学内無線LAN環境のエリア拡大等である。

近年，本学では特色ある教室棟のキャンパス整備を推進しており，平成18年度には大教室・中教室等が中心となる明々館，平成19年度には小教室・PC教室等が中心となる学而館が竣工された。また，稼働率の低い教室もあり，前述の情報環境を更新して本学群の授業に活用するため，教室配置についても十分に対応することができる。

資料目次

| 資料番号 | 資料名 |
|------|---------------------------|
| 資料 1 | グローバル・コミュニケーション学群 卒業要件確認表 |
| 資料 2 | グローバル・コミュニケーション学群 履修モデル |

グローバル・コミュニケーション学群 卒業要件確認表

<英語特別専修>

グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類 卒業要件確認表

学籍番号: _____

姓 名: _____

卒業要件: 以下の①～③をすべて満たし, 124単位以上を修得すること。

①学群指定科目

(必修科目4単位・選択必修科目6単位を含む16単位以上を修得すること)

| 科目名 | 単位数 | 修得方法 | 修得状況 |
|---------------------|-----|-------------------------------|------|
| グローバル・コミュニケーション入門 | ② | 必修 | |
| 外国語修得法 | ② | 必修 | |
| グローバリゼーションと社会 | 2 | 選択必修 (左記から 3科目 修得する) | |
| イノベーションとリーダーシップ | 2 | | |
| 論理的思考とコミュニケーション | 2 | | |
| 数的理解と統計 | 2 | | |
| 応用言語学 | 4 | 選択 | |
| 言語と心理 | 4 | 選択 | |
| グローバル・リーダーシップ・セミナーⅠ | 2 | 選択 | |
| グローバル・リーダーシップ・セミナーⅡ | 2 | 選択 | |
| インターンシップ | 4 | 選択 | |
| フィールド・スタディ | 4 | 選択 | |
| 自己実現とキャリアデザイン | 2 | 選択 | |
| キャリアデザインⅠ | 2 | 選択 | |
| キャリアデザインⅡ | 2 | 選択 | |

①修得単位数 計: _____ 単位 (16単位以上となること)

②語学技能科目 英語コミュニケーション科目群

(必修科目16単位を含む36単位以上を修得すること)

| 科目名 | 単位数 | 修得方法 | 修得状況 |
|----------------|-----|------|------|
| 英語ⅠA | ④ | 必修 | |
| 英語ⅠB | ④ | 必修 | |
| 英語ⅡA | ④ | 必修 | |
| 英語ⅡB | ④ | 必修 | |
| 初級英語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |
| 中級英語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |
| 上級英語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |
| 英語特別演習Ⅰ | 4 | 選択 | |
| 英語特別演習Ⅱ | 4 | 選択 | |
| 英語コミュニケーションAⅠ | 2 | 選択 | |
| 英語コミュニケーションAⅡ | 4 | 選択 | |
| 英語コミュニケーションBⅠ | 2 | 選択 | |
| 英語コミュニケーションBⅡ | 4 | 選択 | |
| 翻訳A | 4 | 選択 | |
| 翻訳B | 4 | 選択 | |
| 英語通訳Ⅰ | 4 | 選択 | |
| 英語通訳Ⅱ | 4 | 選択 | |
| 実践英語A | 2 | 選択 | |
| 実践英語B | 2 | 選択 | |
| 実践英語C | 2 | 選択 | |
| 実践英語D | 2 | 選択 | |
| 実践英語E | 2 | 選択 | |
| 実践英語F | 2 | 選択 | |
| 実践英語G | 2 | 選択 | |
| 実践英語H | 2 | 選択 | |
| 実践英語Ⅰ | 2 | 選択 | |
| 実践英語Ⅱ | 2 | 選択 | |

②修得単位数 計: _____ 単位 (36単位以上となること)

③グローバル・スタディーズ科目

(36単位以上を修得すること)

| 科目名 | 単位数 | 修得方法 | 修得状況 | |
|-------------------|-----|------|------|-----|
| | | | 英語 | 中国語 |
| 日本の文化 | 4 | 選択 | | |
| 近代の日本文化論 | 4 | 選択 | | |
| 比較文化論 | 4 | 選択 | | |
| 日本文学概論 | 4 | 選択 | | |
| 日本文学作品論 | 4 | 選択 | | |
| 比較文学研究 | 4 | 選択 | | |
| 日本の芸術 | 4 | 選択 | | |
| 日本の映像芸術 | 4 | 選択 | | |
| 日本の舞台芸術 | 4 | 選択 | | |
| 日本の歴史 | 4 | 選択 | | |
| 日本の近代史 | 4 | 選択 | | |
| 日本の思想と宗教 | 4 | 選択 | | |
| 比較人文学特論 (複数履修可) | 4 | 選択 | | |
| 英米文化講読 | 4 | 選択 | | - |
| 英米文化研究 | 4 | 選択 | | - |
| 中国文化史 | 4 | 選択 | - | |
| 中国文化論 | 4 | 選択 | - | |
| 異文化コミュニケーション論 | 4 | 選択 | | |
| 金融と経済 | 4 | 選択 | | |
| 日本型経営論 | 4 | 選択 | | |
| 現代の産業と企業 | 4 | 選択 | | |
| 国際政治論 | 4 | 選択 | | |
| 国際関係論 | 4 | 選択 | | |
| 日本人と国際社会 | 4 | 選択 | | |
| グローバル社会とジェンダー | 4 | 選択 | | |
| 比較社会論 | 4 | 選択 | | |
| 比較教育論 | 4 | 選択 | | |
| グローバル社会特論 (複数履修可) | 4 | 選択 | | |
| 国際教養研究A | 2 | 選択 | | |
| 国際教養研究B | 2 | 選択 | | |
| 国際教養研究C | 2 | 選択 | | |
| 国際教養研究D | 2 | 選択 | | |

③修得単位数 計: _____ 単位 (36単位以上となること)

①～③修得単位数 計: _____ 単位 (124単位以上となること)

グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類 卒業要件確認表

学籍番号: _____

姓 名: _____

卒業要件: 以下の①～③をすべて満たし、124単位以上を修得すること。

①学群指定科目

(必修科目4単位・選択必修科目6単位を含む16単位以上を修得すること)

| 科目名 | 単位数 | 修得方法 | 修得状況 |
|---------------------|-----|-------------------------------|------|
| グローバル・コミュニケーション入門 | ② | 必修 | |
| 外国語修得法 | ② | 必修 | |
| グローバリゼーションと社会 | 2 | 選択必修 (左記から 3科目 修得する) | |
| イノベーションとリーダーシップ | 2 | | |
| 論理的思考とコミュニケーション | 2 | | |
| 数的理解と統計 | 2 | | |
| 応用言語学 | 4 | 選択 | |
| 言語と心理 | 4 | 選択 | |
| グローバル・リーダーシップ・セミナーⅠ | 2 | 選択 | |
| グローバル・リーダーシップ・セミナーⅡ | 2 | 選択 | |
| インターンシップ | 4 | 選択 | |
| フィールド・スタディ | 4 | 選択 | |
| 自己実現とキャリアデザイン | 2 | 選択 | |
| キャリアデザインⅠ | 2 | 選択 | |
| キャリアデザインⅡ | 2 | 選択 | |

①修得単位数 計: _____ 単位 (16単位以上となること)

②語学技能科目 中国語コミュニケーション科目群

(必修科目16単位を含む36単位以上を修得すること)

| 科目名 | 単位数 | 修得方法 | 修得状況 |
|-----------------|-----|------|------|
| 中国語ⅠA | ④ | 必修 | |
| 中国語ⅠB | ④ | 必修 | |
| 中国語ⅡA | ④ | 必修 | |
| 中国語ⅡB | ④ | 必修 | |
| 初級中国語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |
| 中級中国語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |
| 上級中国語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |
| 中国語特別演習Ⅰ | 4 | 選択 | |
| 中国語特別演習Ⅱ | 4 | 選択 | |
| 中国語コミュニケーションAⅠ | 2 | 選択 | |
| 中国語コミュニケーションAⅡ | 4 | 選択 | |
| 中国語コミュニケーションBⅠ | 2 | 選択 | |
| 中国語コミュニケーションBⅡ | 4 | 選択 | |
| 日中翻訳技法 | 2 | 選択 | |
| 日中通訳技法 | 2 | 選択 | |
| 実践中国語A | 2 | 選択 | |
| 実践中国語B | 2 | 選択 | |
| 実践中国語C | 2 | 選択 | |
| 実践中国語D | 2 | 選択 | |
| 実践中国語E | 2 | 選択 | |
| 実践中国語F | 2 | 選択 | |
| 実践中国語G | 2 | 選択 | |
| 実践中国語H | 2 | 選択 | |
| 実践中国語Ⅰ | 2 | 選択 | |
| 実践中国語Ⅱ | 2 | 選択 | |

②修得単位数 計: _____ 単位 (36単位以上となること)

③グローバル・スタディーズ科目

(36単位以上を修得すること)

| 科目名 | 単位数 | 修得方法 | 修得状況 | |
|-------------------|-----|------|------|-----|
| | | | 英語 | 中国語 |
| 日本の文化 | 4 | 選択 | | |
| 近代の日本文化論 | 4 | 選択 | | |
| 比較文化論 | 4 | 選択 | | |
| 日本文学概論 | 4 | 選択 | | |
| 日本文学作品論 | 4 | 選択 | | |
| 比較文学研究 | 4 | 選択 | | |
| 日本の芸術 | 4 | 選択 | | |
| 日本の映像芸術 | 4 | 選択 | | |
| 日本の舞台芸術 | 4 | 選択 | | |
| 日本の歴史 | 4 | 選択 | | |
| 日本の近代史 | 4 | 選択 | | |
| 日本の思想と宗教 | 4 | 選択 | | |
| 比較人文学特論 (複数履修可) | 4 | 選択 | | |
| 英米文化講読 | 4 | 選択 | | - |
| 英米文化研究 | 4 | 選択 | | - |
| 中国文化史 | 4 | 選択 | - | |
| 中国文化論 | 4 | 選択 | - | |
| 異文化コミュニケーション論 | 4 | 選択 | | |
| 金融と経済 | 4 | 選択 | | |
| 日本型経営論 | 4 | 選択 | | |
| 現代の産業と企業 | 4 | 選択 | | |
| 国際政治論 | 4 | 選択 | | |
| 国際関係論 | 4 | 選択 | | |
| 日本人と国際社会 | 4 | 選択 | | |
| グローバル社会とジェンダー | 4 | 選択 | | |
| 比較社会論 | 4 | 選択 | | |
| 比較教育論 | 4 | 選択 | | |
| グローバル社会特論 (複数履修可) | 4 | 選択 | | |
| 国際教養研究A | 2 | 選択 | | |
| 国際教養研究B | 2 | 選択 | | |
| 国際教養研究C | 2 | 選択 | | |
| 国際教養研究D | 2 | 選択 | | |

③修得単位数 計: _____ 単位 (36単位以上となること)

①～③修得単位数 計: _____ 単位 (124単位以上となること)

グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類 卒業要件確認表

学籍番号: _____

姓 名: _____

卒業要件: 以下の①～③をすべて満たし、124単位以上を修得すること。

①学群指定科目

(必修科目4単位・選択必修科目6単位を含む16単位以上を修得すること)

| 科目名 | 単位数 | 修得方法 | 修得状況 |
|---------------------|-----|-------------------------------|------|
| グローバル・コミュニケーション入門 | ② | 必修 | |
| 外国語修得法 | ② | 必修 | |
| グローバリゼーションと社会 | 2 | 選択必修 (左記から 3科目 修得する) | |
| イノベーションとリーダーシップ | 2 | | |
| 論理的思考とコミュニケーション | 2 | | |
| 数的理解と統計 | 2 | | |
| 応用言語学 | 4 | 選択 | |
| 言語と心理 | 4 | 選択 | |
| グローバル・リーダーシップ・セミナーⅠ | 2 | 選択 | |
| グローバル・リーダーシップ・セミナーⅡ | 2 | 選択 | |
| インターンシップ | 4 | 選択 | |
| フィールド・スタディ | 4 | 選択 | |
| 自己実現とキャリアデザイン | 2 | 選択 | |
| キャリアデザインⅠ | 2 | 選択 | |
| キャリアデザインⅡ | 2 | 選択 | |

①修得単位数 計: _____ 単位 (16単位以上となること)

②語学技能科目 日本語コミュニケーション科目群

(必修科目16単位を含む36単位以上を修得すること)

| 科目名 | 単位数 | 修得方法 | 修得状況 |
|-----------------|-----|------|------|
| 日本語ⅠA | ④ | 必修 | |
| 日本語ⅠB | ④ | 必修 | |
| 日本語ⅡA | ④ | 必修 | |
| 日本語ⅡB | ④ | 必修 | |
| 初級日本語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |
| 中級日本語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |
| 上級日本語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |
| 日本語特別演習Ⅰ | 4 | 選択 | |
| 日本語特別演習Ⅱ | 4 | 選択 | |
| 日本語コミュニケーションAⅠ | 2 | 選択 | |
| 日本語コミュニケーションAⅡ | 4 | 選択 | |
| 日本語コミュニケーションBⅠ | 2 | 選択 | |
| 日本語コミュニケーションBⅡ | 4 | 選択 | |

②修得単位数 計: _____ 単位 (36単位以上となること)

③グローバル・スタディーズ科目

(36単位以上を修得すること)

| 科目名 | 単位数 | 修得方法 | 修得状況 | |
|-------------------|-----|------|------|-----|
| | | | 英語 | 中国語 |
| 日本の文化 | 4 | 選択 | | |
| 近代の日本文化論 | 4 | 選択 | | |
| 比較文化論 | 4 | 選択 | | |
| 日本文学概論 | 4 | 選択 | | |
| 日本文学作品論 | 4 | 選択 | | |
| 比較文学研究 | 4 | 選択 | | |
| 日本の芸術 | 4 | 選択 | | |
| 日本の映像芸術 | 4 | 選択 | | |
| 日本の舞台芸術 | 4 | 選択 | | |
| 日本の歴史 | 4 | 選択 | | |
| 日本の近代史 | 4 | 選択 | | |
| 日本の思想と宗教 | 4 | 選択 | | |
| 比較人文学特論 (複数履修可) | 4 | 選択 | | |
| 英米文化講読 | 4 | 選択 | | - |
| 英米文化研究 | 4 | 選択 | | - |
| 中国文化史 | 4 | 選択 | - | |
| 中国文化論 | 4 | 選択 | - | |
| 異文化コミュニケーション論 | 4 | 選択 | | |
| 金融と経済 | 4 | 選択 | | |
| 日本型経営論 | 4 | 選択 | | |
| 現代の産業と企業 | 4 | 選択 | | |
| 国際政治論 | 4 | 選択 | | |
| 国際関係論 | 4 | 選択 | | |
| 日本人と国際社会 | 4 | 選択 | | |
| グローバル社会とジェンダー | 4 | 選択 | | |
| 比較社会論 | 4 | 選択 | | |
| 比較教育論 | 4 | 選択 | | |
| グローバル社会特論 (複数履修可) | 4 | 選択 | | |
| 国際教養研究A | 2 | 選択 | | |
| 国際教養研究B | 2 | 選択 | | |
| 国際教養研究C | 2 | 選択 | | |
| 国際教養研究D | 2 | 選択 | | |

③修得単位数 計: _____ 単位 (36単位以上となること)

①～③修得単位数 計: _____ 単位 (124単位以上となること)

グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類 卒業要件確認表

学籍番号: _____
姓 名: _____

卒業要件: 以下の①～③をすべて満たし、124単位以上を修得すること。

①学群指定科目

(必修科目4単位・選択必修科目6単位を含む16単位以上を修得すること)

| 科目名 | 単位数 | 修得方法 | 修得状況 |
|---------------------|-----|-------------------------------|------|
| グローバル・コミュニケーション入門 | ② | 必修 | |
| 外国語修得法 | ② | 必修 | |
| グローバルゼーションと社会 | 2 | 選択必修 (左記から 3科目 修得する) | |
| イノベーションとリーダーシップ | 2 | | |
| 論理的思考とコミュニケーション | 2 | | |
| 数的理解と統計 | 2 | | |
| 応用言語学 | 4 | 選択 | |
| 言語と心理 | 4 | 選択 | |
| グローバル・リーダーシップ・セミナーⅠ | 2 | 選択 | |
| グローバル・リーダーシップ・セミナーⅡ | 2 | 選択 | |
| インターンシップ | 4 | 選択 | |
| フィールド・スタディ | 4 | 選択 | |
| 自己実現とキャリアデザイン | 2 | 選択 | |
| キャリアデザインⅠ | 2 | 選択 | |
| キャリアデザインⅡ | 2 | 選択 | |

| 科目名 | 単位数 | 修得方法 | 修得状況 |
|----------------|-----|------|------|
| 中国語特別演習Ⅰ | 4 | 選択 | |
| 中国語特別演習Ⅱ | 4 | 選択 | |
| 中国語コミュニケーションAⅠ | 2 | 選択 | |
| 中国語コミュニケーションAⅡ | 4 | 選択 | |
| 中国語コミュニケーションBⅠ | 2 | 選択 | |
| 中国語コミュニケーションBⅡ | 4 | 選択 | |
| 日中翻訳技法 | 2 | 選択 | |
| 日中通訳技法 | 2 | 選択 | |
| 実践中国語A | 2 | 選択 | |
| 実践中国語B | 2 | 選択 | |
| 実践中国語C | 2 | 選択 | |
| 実践中国語D | 2 | 選択 | |
| 実践中国語E | 2 | 選択 | |
| 実践中国語F | 2 | 選択 | |
| 実践中国語G | 2 | 選択 | |
| 実践中国語H | 2 | 選択 | |
| 実践中国語Ⅰ | 2 | 選択 | |
| 実践中国語Ⅱ | 2 | 選択 | |

①修得単位数 計: _____ 単位 (16単位以上となること)

②修得単位数 計: _____ 単位 (36単位以上となること)

②語学技能科目 英語・中国語コミュニケーション科目群

(必修科目16単位を含む36単位以上を修得すること)

| 科目名 | 単位数 | 修得方法 | 修得状況 |
|-----------------|-----|------|------|
| 英語ⅠA | ④ | 必修 | |
| 英語ⅠB | ④ | 必修 | |
| 英語ⅡA | ④ | 必修 | |
| 英語ⅡB | ④ | 必修 | |
| 初級英語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |
| 中級英語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |
| 上級英語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |
| 英語特別演習Ⅰ | 4 | 選択 | |
| 英語特別演習Ⅱ | 4 | 選択 | |
| 英語コミュニケーションAⅠ | 2 | 選択 | |
| 英語コミュニケーションAⅡ | 4 | 選択 | |
| 英語コミュニケーションBⅠ | 2 | 選択 | |
| 英語コミュニケーションBⅡ | 4 | 選択 | |
| 翻訳A | 4 | 選択 | |
| 翻訳B | 4 | 選択 | |
| 英語通訳Ⅰ | 4 | 選択 | |
| 英語通訳Ⅱ | 4 | 選択 | |
| 実践英語A | 2 | 選択 | |
| 実践英語B | 2 | 選択 | |
| 実践英語C | 2 | 選択 | |
| 実践英語D | 2 | 選択 | |
| 実践英語E | 2 | 選択 | |
| 実践英語F | 2 | 選択 | |
| 実践英語G | 2 | 選択 | |
| 実践英語H | 2 | 選択 | |
| 実践英語Ⅰ | 2 | 選択 | |
| 実践英語Ⅱ | 2 | 選択 | |
| 中国語ⅠA | 4 | 選択 | |
| 中国語ⅠB | 4 | 選択 | |
| 中国語ⅡA | 4 | 選択 | |
| 中国語ⅡB | 4 | 選択 | |
| 初級中国語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |
| 中級中国語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |
| 上級中国語演習 (複数履修可) | 2 | 選択 | |

③グローバル・スタディーズ科目

(36単位以上を修得すること)

| 科目名 | 単位数 | 修得方法 | 修得状況 | |
|-------------------|-----|------|------|-----|
| | | | 英語 | 中国語 |
| 日本の文化 | 4 | 選択 | | |
| 近代の日本文化論 | 4 | 選択 | | |
| 比較文化論 | 4 | 選択 | | |
| 日本文学概論 | 4 | 選択 | | |
| 日本文学作品論 | 4 | 選択 | | |
| 比較文学研究 | 4 | 選択 | | |
| 日本の芸術 | 4 | 選択 | | |
| 日本の映像芸術 | 4 | 選択 | | |
| 日本の舞台芸術 | 4 | 選択 | | |
| 日本の歴史 | 4 | 選択 | | |
| 日本の近代史 | 4 | 選択 | | |
| 日本の思想と宗教 | 4 | 選択 | | |
| 比較人文学特論 (複数履修可) | 4 | 選択 | | |
| 英米文化講読 | 4 | 選択 | | - |
| 英米文化研究 | 4 | 選択 | | - |
| 中国文化史 | 4 | 選択 | - | |
| 中国文化論 | 4 | 選択 | - | |
| 異文化コミュニケーション論 | 4 | 選択 | | |
| 金融と経済 | 4 | 選択 | | |
| 日本型経営論 | 4 | 選択 | | |
| 現代の産業と企業 | 4 | 選択 | | |
| 国際政治論 | 4 | 選択 | | |
| 国際関係論 | 4 | 選択 | | |
| 日本人と国際社会 | 4 | 選択 | | |
| グローバル社会とジェンダー | 4 | 選択 | | |
| 比較社会論 | 4 | 選択 | | |
| 比較教育論 | 4 | 選択 | | |
| グローバル社会特論 (複数履修可) | 4 | 選択 | | |
| 国際教養研究A | 2 | 選択 | | |
| 国際教養研究B | 2 | 選択 | | |
| 国際教養研究C | 2 | 選択 | | |
| 国際教養研究D | 2 | 選択 | | |

③修得単位数 計: _____ 単位 (36単位以上となること)

①～③修得単位数 計: _____ 単位 (124単位以上となること)

グローバル・コミュニケーション学群 履修モデル

<英語特別専修>

グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類 履修モデル

英語特別専修に所属して2年次後期より1学期間海外留学し、卒業後は、グローバル企業等の諸分野において活躍を目指す学生の履修モデル

| | 1年次 | | 2年次 | | | | 3年次 | | 4年次 | | 小計 | | | | | | |
|-----------------|-------------------|----|-----------------|----|-----------------|----|----------|----------|----------------------|---------|-----------------------|---|----------|---|---------|----|-----|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | | | | | | | |
| | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | | | | | | | |
| 学群指定科目 | グローバル・コミュニケーション入門 | 2 | 数的思考と統計 | 2 | | | 応用言語学 | 4 | グローバル・リーダーシップ・セミナー I | 2 | グローバル・リーダーシップ・セミナー II | 2 | 20 | | | | |
| | 外国語修得法 | 2 | イノベーションとリーダーシップ | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| | 自己実現とキャリアデザイン | 2 | 論理的思考とコミュニケーション | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| 語学技能科目 | 英語 I A | 4 | 英語 II A | 4 | 英語コミュニケーション A I | 2 | 実践英語 A | 2 | 英語コミュニケーション A II | 4 | 英語コミュニケーション B II | 4 | 英語通訳 I | 4 | 英語通訳 II | 4 | 58 |
| | 英語 I B | 4 | 英語 II B | 4 | 英語コミュニケーション B I | 2 | 実践英語 B | 2 | | | | | | | | | |
| | 上級英語演習 | 2 | 英語特別演習 II | 4 | | | 実践英語 C | 2 | | | | | | | | | |
| | 英語特別演習 I | 4 | | | | | 実践英語 D | 2 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 実践英語 E | 2 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 実践英語 F | 2 | | | | | | | | | |
| グローバル・スタディーズ科目群 | | | | | 比較文化論 | 4 | | 日本の思想と宗教 | 4 | 比較人文学特論 | 4 | | | | | 46 | |
| | | | | | 日本の近代史 | 4 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 日本の歴史 | 4 | | | | | | | | | | | |
| グローバル社会系科目群 | | | | | 英米文化研究 | 4 | 国際教養研究 A | 2 | 金融と経済 | 4 | 国際政治論 | 4 | 現代の産業と企業 | 4 | 国際関係論 | 4 | 46 |
| | | | | | | | | 英米文化講読 | 4 | | | | | | | | |
| 学期計 | 20 | | 18 | | 20 | | 14 | | 20 | | 14 | | 10 | | 8 | | 合計 |
| 学年計 | 38 | | | | 34 | | | | 34 | | | | 18 | | | | 124 |

グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類 履修モデル

中国語特別専修に所属して2年次後期より1学期間留学し、卒業後は、国内外資系企業の海外事業部門等の諸分野において活躍を目指す学生の履修モデル

| | 1年次 | | | | 2年次 | | | | 3年次 | | | | 4年次 | | | | 小計 |
|----------------|-------------------|----|-----------------|----------|------------------|----|---------|----------|-------------------|---------------|----------------------|-------|-----------------------|-------|-------|----|----|
| | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | |
| | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | |
| 学群指定科目 | グローバル・コミュニケーション入門 | 2 | 論理的思考とコミュニケーション | 2 | | | | | キャリアデザイン I | 2 | キャリアデザイン II | 2 | グローバル・リーダーシップ・セミナー II | 2 | | | |
| | 外国語修得法 | 2 | グローバル化と社会 | 2 | | | | | | | グローバル・リーダーシップ・セミナー I | 2 | | | | | |
| | 自己実現とキャリアデザイン | 2 | イノベーションとリーダーシップ | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| 語学技能科目 | 中国語 I A | 4 | 中国語 II A | 4 | 中国語コミュニケーション A I | 2 | 実践中国語 A | 2 | 中国語コミュニケーション A II | 4 | 中国語コミュニケーション B II | 4 | | | | | |
| | 中国語 I B | 4 | 中国語 II B | 4 | 中国語コミュニケーション B I | 2 | 実践中国語 B | 2 | | | | | | | | | |
| | 初級中国語演習 | 2 | 初級中国語演習 | 2 | 中級中国語演習 | 2 | 実践中国語 C | 2 | | | | | | | | | |
| | 中国語特別演習 I | 4 | 中国語特別演習 II | 4 | 中級中国語演習 | 2 | 実践中国語 D | 2 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 実践中国語 E | 2 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 実践中国語 F | 2 | | | | | | | | | |
| グローバル・スタディーズ科目 | 日本文化系科目群 | | | 比較文化論 | 4 | | | 比較人文学特論 | 4 | 近代の日本文化論 | 4 | | | | | | |
| | | | | | | | | 日本の歴史 | 4 | | | | | | | | |
| グローバル・スタディーズ科目 | グローバル社会系科目群 | | | 日本人と国際社会 | 4 | | | 現代の産業と企業 | 4 | 異文化コミュニケーション論 | 4 | 中国文化論 | 4 | 中国文化史 | 4 | | |
| | | | | 日本型経営論 | 4 | | | | | 金融と経済 | 4 | 国際政治論 | 4 | | | | |
| 学期計 | 20 | 20 | 20 | 12 | 18 | 16 | 10 | 8 | 合計 | | | | | | | | |
| 学年計 | 40 | | 32 | | 34 | | 18 | | 124 | | | | | | | | |

グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類 履修モデル

日本語特別専修に所属して、卒業後は母国に戻り、日系企業の海外支店等の諸分野において活躍を目指す学生の履修モデル

| | 1年次 | | | | 2年次 | | | | 3年次 | | | | 4年次 | | | | 小計 |
|----------------|-------------------|----|-----------------|--------|------------------|----------|------------------|----------|-------------------|---------|-------------------|----------|-------|-----------|-------|----|-----|
| | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | |
| | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | |
| 学群指定科目 | グローバル・コミュニケーション入門 | 2 | 論理的思考とコミュニケーション | 2 | | | | | インターンシップ | 4 | フィールド・スタディ | 4 | | | | | 18 |
| | 外国語修得法 | 2 | グローバル化と社会 | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 数的理解と統計 | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| 語学技能科目 | 日本語 I A | 4 | 日本語 II A | 4 | 上級日本語演習 | 2 | 上級日本語演習 | 2 | 日本語コミュニケーション A II | 4 | 日本語コミュニケーション B II | 4 | | | | | 54 |
| | 日本語 I B | 4 | 日本語 II B | 4 | 上級日本語演習 | 2 | 上級日本語演習 | 2 | | | | | | | | | |
| | 上級日本語演習 | 2 | 上級日本語演習 | 2 | 上級日本語演習 | 2 | 上級日本語演習 | 2 | | | | | | | | | |
| | 上級日本語演習 | 2 | 日本語特別演習 II | 4 | 日本語コミュニケーション A I | 2 | 日本語コミュニケーション B I | 2 | | | | | | | | | |
| | 日本語特別演習 I | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| グローバル・スタディーズ科目 | 日本文化系科目群 | | | 比較文化論 | 4 | 日本の文化 | 4 | 日本の映像芸術 | 4 | 日本文学作品論 | 4 | 比較人文学特論 | 4 | 比較文学研究 | 4 | | 52 |
| | | | | 日本文学概論 | 4 | 近代の日本文化論 | 4 | 日本の思想と宗教 | 4 | 日本の芸術 | 4 | 日本の舞台芸術 | 4 | | | | |
| | グローバル社会系科目群 | | | | | | | | | | | 日本人と国際社会 | 4 | グローバル社会特論 | 4 | | |
| 学期計 | 20 | | 20 | | 16 | | 16 | | 16 | | 16 | | 12 | | 8 | | 合計 |
| 学年計 | 40 | | | | 32 | | | | 32 | | | | 20 | | | | 124 |

グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類 履修モデル

英語特別専修に所属して英語学位の取得を視野に入れ、2年次後期より1学期間留学し、卒業後は、国際機関の諸分野において活躍を目指す学生の履修モデル

| | 1年次 | | | | 2年次 | | | | 3年次 | | | | 4年次 | | | | 小計 |
|-----------------|-------------------|----|-----------------|----|-----------------|----|----------|----|------------|----|----------------------|----|-----------------------|----|-------|----|-----|
| | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | |
| | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | |
| 学群指定科目 | グローバル・コミュニケーション入門 | 2 | イノベーションとリーダーシップ | 2 | | | | | フィールド・スタディ | 4 | グローバル・リーダーシップ・セミナー I | 2 | グローバル・リーダーシップ・セミナー II | 2 | | | 18 |
| | 外国語修得法 | 2 | 論理的思考とコミュニケーション | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| | グローバリゼーションと社会 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 語学技能科目 | 英語 I A | 4 | 英語 II A | 4 | 上級英語演習 | 2 | 実践英語 A | 2 | | | | | | | | | 46 |
| | 英語 I B | 4 | 英語 II B | 4 | 上級英語演習 | 2 | 実践英語 B | 2 | | | | | | | | | |
| | 上級英語演習 | 2 | 上級英語演習 | 2 | 英語コミュニケーション A I | 2 | 実践英語 C | 2 | | | | | | | | | |
| | 英語特別演習 I | 4 | 英語特別演習 II | 4 | 英語コミュニケーション B I | 2 | 実践英語 D | 2 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 実践英語 E | 2 | | | | | | | | | |
| グローバル・スタディーズ科目群 | 日本文化系科目群 | | | | 比較文化論 | 4 | | | 日本の思想と宗教 | 4 | 日本の歴史 | 4 | 比較人文学特論 | 4 | | | 60 |
| | グローバル社会系科目群 | | | | 日本の近代史 | 4 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 比較教育論 | 4 | 国際教養研究 A | 2 | 金融と経済 | 4 | 異文化コミュニケーション論 | 4 | グローバル社会特論 | 4 | 国際関係論 | 4 | |
| | | | | | | | 国際教養研究 B | 2 | 日本人と国際社会 | 4 | 国際政治論 | 4 | | | 比較社会論 | 4 | |
| | | | | | | | 国際教養研究 C | 2 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 国際教養研究 D | 2 | | | | | | | | | |
| 学期計 | 20 | | 18 | | 20 | | 18 | | 16 | | 14 | | 10 | | 8 | | 合計 |
| 学年計 | 38 | | | | 38 | | | | 30 | | | | 18 | | | | 124 |

グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類 履修モデル

グローバル教養専修に所属して、2年次後期より1学期間留学し、卒業後は、広く海外展開を行う企業の諸分野での活躍を目指す学生の履修モデル

| | 1年次 | | | | 2年次 | | | | 3年次 | | | | 4年次 | | | | 小計 |
|-----------------|-------------------|----|-----------------|----|-----------------|--------|----------|---------|----------|----------|----------------------|------------------|-----------------------|-----------|------------------|----|-----|
| | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | 前期 | | 後期 | | |
| | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | 授業科目名 | 単位 | |
| 学群指定科目 | グローバル・コミュニケーション入門 | 2 | イノベーションとリーダーシップ | 2 | 言語と心理 | 4 | | | | | グローバル・リーダーシップ・セミナー I | 2 | グローバル・リーダーシップ・セミナー II | 2 | | | 20 |
| | 外国語修得法 | 2 | 論理的思考とコミュニケーション | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| | グローバル化と社会 | 2 | 数的思考と統計 | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| 語学技能科目 | 英語 I A | 4 | 英語 II A | 4 | 英語コミュニケーション A I | 2 | 実践英語 A | 2 | 中国語 I A | 4 | 中国語 II A | 4 | 翻訳 A | 4 | 中国語コミュニケーション B I | 2 | 68 |
| | 英語 I B | 4 | 英語 II B | 4 | | 実践英語 B | 2 | 中国語 I B | 4 | 中国語 II B | 4 | 初級中国語演習 | 2 | | | | |
| | 上級英語演習 | 2 | 上級英語演習 | 2 | | 実践英語 C | 2 | 初級中国語演習 | 2 | 初級中国語演習 | 2 | 中国語コミュニケーション A I | 2 | | | | |
| | 英語特別演習 I | 4 | 英語特別演習 II | 4 | | 実践英語 D | 2 | | | | | | | | | | |
| グローバル・スタディーズ科目群 | 日本文化系科目群 | | | | 日本の近代史(英語クラス) | 4 | | | 日本の思想と宗教 | 4 | | | 日本の近代史(中国語クラス) | 4 | | 36 | |
| | グローバル社会系科目群 | | | | 比較教育論 | 4 | 国際教養研究 A | 2 | 日本人と国際社会 | 4 | 異文化コミュニケーション論 | 4 | | グローバル社会特論 | 4 | | |
| 学期計 | 20 | | 20 | | 18 | | 12 | | 18 | | 16 | | 14 | | 6 | | 合計 |
| 学年計 | 40 | | | | 30 | | | | 34 | | | | 20 | | | | 124 |